

第45回蒲郡市地域公共交通会議 議事録

1	日時	令和7年6月25日（水） 午後2時30分～4時00分	
2	場所	蒲郡市役所 本館3階 303会議室	
3	出席者	委 員 愛知工科大学機械システム工学科教授	村上新
		委 員 名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授	松本幸正
		委 員 愛知運輸支局	原田光一郎
		委 員 愛知県都市整備局交通対策課	石屋義道 (代理 伊藤智哉)
		委 員 総代連合会会長	細井政雄（欠席）
		委 員 形原地区公共交通協議会	藤田幸三
		委 員 東部地区公共交通協議会	金澤裕生
		委 員 西部地区公共交通協議会	倉橋勝良
		委 員 三谷地区公共交通協議会	小田勝一
		委 員 大塚地区公共交通協議会	山口俊明
		委 員 西浦地区公共交通協議会	壁谷隆
		委 員 塩津地区公共交通協議会	榊原関保
		委 員 蒲郡市身体障害者福祉協会	神田元治
		委 員 蒲郡市老人クラブ連合会	鈴木香代子
		委 員 蒲郡市社会福祉協議会	鈴木良一（欠席）
		委 員 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会	鈴木善晴
		委 員 NPO法人ブックパートナー	岡田有里子
		委 員 蒲郡市ボランティア連絡協議会	山本なおみ
		委 員 蒲郡市子ども会連絡協議会	坪井英幸
		委 員 蒲郡商工会議所	小澤素生 (代理 青木宣貴)
		委 員 蒲郡市観光協会	杉山和弘 (代理 高井知明)
		委 員 名鉄バス株式会社	後藤泰之
		委 員 豊鉄タクシー株式会社	鈴木英司
		委 員 株式会社かねー自動車	黒木成美（欠席）
		委 員 名古屋鉄道株式会社	高井勇輔 (代理 内藤真一)
		委 員 公益社団法人愛知県バス協会	小林裕之
		委 員 愛知県タクシー協会	深谷克巳
		委 員 愛知県交通運輸産業労働組合協議会	壁谷政志
		委 員 愛知県蒲郡警察署	磯貝篤
		委 員 東三河建設事務所	奥谷敦史

委 員	蒲郡市長	鈴木寿明
委 員	蒲郡市市民生活部長	大森康弘
事務局	蒲郡市交通防犯課長	磯貝友宏
	蒲郡市交通防犯課係長	伴文明
	蒲郡市交通防犯課主査	石川雄策
	蒲郡市交通防犯課主事	山村輝良々
地域公共交通計画推進事業受託事業者 三菱ＵＦＪリサーチ&コンサルティング株式会社 ２名		

4 議題

(1) 開会挨拶

5 報告事項

- (1) 令和６年度公共交通の状況について・・・・・・・・・・【資料１】
- (2) 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果について・・・・・・・・・・【資料２】
- (3) 蒲郡市地域公共交通計画事業進捗について・・・・・・・・・・【資料３】
- (4) 東三河地域公共交通利用促進イベントの実施について・・・・・・・・・・【資料４】

6 協議事項

- (1) 令和６年度蒲郡市地域公共交通会議決算について・・・・・・・・・・【資料５】
- (2) 蒲郡市地域公共交通計画の一部改正について・・・・・・・・・・【資料６】
- (3) 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金について・・・・・・・・・・【資料７】
- (4) 次期蒲郡市地域公共交通計画について・・・・・・・・・・【資料８】

7 その他

8 議事内容

(1) 開会

- ・ 出席委員が２９名であり、定足数に達しているため、蒲郡市地域公共交通会議設置要綱第７条第２項の規定により会議が成立すること、本日の会議が公開となっており、傍聴を希望される方がいることが事務局より報告された。

(2) 議題

ア 開会挨拶

蒲郡市長より、名鉄蒲郡線について、令和９年度以降、みなし上下分離方式による１５年間を基本とする運行存続が決定した。コミュニティバスでは、７地区目となる「しおつくるりんバス」が運行開始を予定している。コミュニティバスは、交通空白地の解消、高齢者の移動手段の確保等のため必要と考える。電車、路線バス、コミュニティバスがそれぞれの役割を果たし、より良い公共交通の形成に向けて皆様のご協力を得て検討を進めたい、とのあいさつがあった。

イ 委員紹介及び役員の指名について

委員紹介について、机上配布の配席表に代える。

蒲郡市地域公共交通会議設置要綱第５条第２項により、蒲郡市長が会長に就任、続けて会長より副会長に大森委員、座長に村上委員、監事に細井委員と藤田委員を指名した

ことを報告。また、要綱第6条第3項に基づき座長である村上委員を議長に指名。

- ・ 議長より本日の議事録署名人として2名の委員が指名された。

(3) 協議事項

ア 蒲郡市内公共交通の利用状況等について

- ・ 事務局より資料1に基づく報告が行われた。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ コミュニティバスについては、地区の方々が努力されており、成果が出てきているところもあるが、一方で伸び悩みも見られる。折角の機会なので、各地区から取組み等について一言ずついただきたい。

(形原地区委員)

- ・ 平成27年度から運行開始し、10年経過した。5月29日に累計5万人を達成した。直近では1便あたり約5.2人の方が乗車されている。

住民の足として普段から利用されるよう協議会も協力して取組みをしている。毎年、保育園児に集まってもらい、バス乗車の体験をしてもらい子どもたちも喜んでくれている。その時ぬりえも描いてもらい、公民館で展示している。

(東部地区委員)

- ・ 利用増の理由は不明確だが、地域の高齢者の憩いの場を増やす取り組みなどが影響しているのではないかと考えられる。

(西部地区委員)

- ・ 利用者数伸び悩んでいるので、ここで皆さんの知恵をいただいて地域に持ち帰り、利用者を増やしていきたい。

(三谷地区委員)

- ・ 利用者が減ってしまっていて残念。毎月、公民館だよりでの周知など努力はしているが、なかなか増えない。市民病院に直接行けるようにできたらと思って望んでいる。

(大塚地区委員)

- ・ 一昨年頃から、夕方暑いときに児童の通学でくるりんバスを使わせてもらえないかという話が小学校から出てきていた。遠いところでは2.5kmほどの距離がある。くるりんバスに乗って帰ってもらえるよう助成を行っていることもあって、小学生の利用があると思う。

(西浦地区委員)

- ・ 西浦園地でのイベントの際には、無料券を配布するなどの乗車利用促進を図っている。また、認知度向上のために、園児にぬりえを描いてもらい展示・表彰を行ったり、看護学校の学生たちにも地域体験の中でバスを利用してもらったりなど、利用促進の工夫はしている。一方で、コミバスの路線で行きたいと思うところがないために利用されないということもあるだろう。今後もイベント時の配布など続けたい。

(塩津地区委員)

- ・ 10/11 運行開始予定。バス停・コースが決まり、名前も「しおつくるりんバス」に決まった。住民に関心を持ってもらうため、シンボルマークは募集した。楽しみにしてくれている住民もいる。今後、利用者を増やしていけるよう、地域を盛り上げていければと思う。

(委員)

- ・ みなさんに知っていただくこと、お出かけの目的地をつくることはすごく良い。これは行政にはできず、地区の方にしかできないことだと思う。
熱中症対策として、通学の際に公共交通を使うようにされているのもとてもよい取り組みである。

イ 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果について

- ・ 事務局より資料2に基づく報告が行われた。

〔質 疑〕

なし

ウ 蒲郡市地域公共交通計画事業進捗について

- ・ 事務局より資料3に基づく報告が行われた。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ この評価の目的は、次に何をすべきかを明確にするためであり、PDCA を回すためである。○は計画通りに進んでいるということでよいが、×や△になっている事項について、どう改善するかを記載する必要があると認識している。移動手段総動員化について、進捗が見られなかったという記載のみだがどのように考えているか。

(事務局)

- ・ 混乗を検討したが、関係者ヒアリングから本来の利用者が利用できなくなる懸念や重複路線との調整の必要などがわかった。今後は、次期計画において路線の見直し検討を進めていきたいと考えており、その中で住民との混乗利用についてどうすべきかを考えていきたい。

(委 員)

- ・ 計画の策定に向けてさらなる検討を進めるのであればよい、了解した。

エ 東三河地域公共交通利用促進イベントの実施について

- ・ 事務局より資料4に基づく報告が行われた。

〔質 疑〕

なし

(4) 協議事項

ア 令和6年度蒲郡市地域公共交通会議決算について

- ・ 事務局より資料5に基づく説明と監事代表1名から監査報告が行われ、全会一致で

承認された。

〔質 疑〕

なし

イ 蒲郡市地域公共交通計画の一部改正について

- ・ 事務局より資料 6 に基づく説明が行われ、全会一致で承認された。

〔質 疑〕

なし

ウ 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金について

- ・ 事務局より資料 7 に基づく説明が行われ、全会一致で承認された。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ 定量的な目標について、塩津地区は実績がないため他地区の実績を踏まえたものとだが、具体的な設定方法について聞きたい。

(事務局)

- ・ 直近で運行開始したのが西浦地区であるが、利用が伸びていないことから、次に利用者数が近い西部地区 1,950 人との間を取り、1,500 人目標とした。

(委 員)

- ・ 二次評価での指摘も踏まえて確認したい。目標値を変えてはどうかという指摘に対して、交通計画では利用者数の数字は明記せず増加を目指すとしていることから、フィーダー計画の数字は前年より増やしたということによいか。

(事務局)

- ・ 交通計画の目標に沿って、フィーダー計画の数字は前年より増やすように目標値を設定している。

(委 員)

- ・ 収支率について、支線ごとの評価の限界などの指摘もあったが、今回のフィーダー計画に反映させるわけではなく、これまで通り支線ごとの評価で見ていくということで、昨年より増加させていくという理解でよいか。

(事務局)

- ・ 収支率については、交通計画において各地区 10% を目標にしている。

(委 員)

- ・ フィーダー計画には掲げられているが、フィーダー計画の方には書かれていなかったという理解でよいか。

(事務局)

- ・ その通りである。

(委 員)

- ・ 乗り継ぎについても指摘があった。乗り継ぎの情報発信などについて書かれているが、国の評価を受けて今回追加した記載か。

(事務局)

- ・ その通りである。

(委 員)

- ・ この目標値に向けて各地区も取組みを行っていくことを了承するということになる、各地区の確認の上で実施していただきたい。二年後には自己評価をすることになる。もし今お気づきの点あればお話しいただきたい。なお、昨年については、約 280 万円の補助金が出ている、補助をもらいながら実施していることも認識しながらやっていければと思う。

エ 次期蒲郡市地域公共交通計画について

- ・ 事務局より資料 8 に基づく説明が行われ、アンケートの修正等を事務局一任とし全会一致で承認された。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ 表現、文言についてばらつきがあるので統一した方がよい。
自身のことについての設問について、身体的なものか、違うことを含めて聞いているかわかりにくい。
不便を感じる理由について整理した方がよい。

(事務局)

- ・ 指摘いただいた箇所含めて文言の統一など、改めて確認し修正を行う。

(委 員)

- ・ 説明文中、「利用者が減少し、経営が圧迫され」と書かれている箇所について、地域の会議の中で、採算がとれないものは経営しない方がよいという趣旨の発言をした方もいたが、高齢者含め市民が住みよいまちをつくるために税金を有効利用して使うものだと思っている。この文章は受け取り方によってそういう見方もできてしまうのではないか。

(事務局)

- ・ 意図としては、必要とする方が公共交通を使えるように市で取り組む必要があるということであり、前段でも記載している。表現については検討したい。

(委 員)

- ・ コミュニティバスは、一人あたりの単価が高いが、交通空白地を回る特性上致し方ない部分がある。今後、市の公共交通をうまく利用できるよう、意見を取ってもらいたいと思う。

(事務局)

- ・ 費用についての記載もしている。公共交通の維持にかかる費用について、意見をもらいたいと考えている。

(委 員)

- ・ 計画の改定に向けたアンケートとして、必要なのは現計画への評価に必要な質問と見直しに向けた質問である。

質問が盛りだくさんで字も多いので回答を嫌がられないか。もっとシンプルにしてはどうか。

各モードについて聞いているが、運転手になる意向について市民アンケートで聞いてもどうするのかという気がする。

バスを利用しない理由について、基本的には自家用車を利用しているからだろう。次の政策に反映できないことは聞いても無駄になってしまう。

蒲郡市にとって、高校生の通学手段の確保については、名鉄西尾・蒲郡線にとっても重要であるので、少し掘り下げてほしい。

次に観光客について、豊かな観光資源を当たり前だと思っているかもしれないが、蒲郡市内の観光資源へのアクセスも重要な視点だと思う。

大幅に変えてほしいということではないが、意見として受け取っていただきたい。
(事務局)

- ・ 分量が多いということについてできるだけ減らしていきたい。ご意見いただいたところについても改めて検討し、削除や新たに組み込むなどしていきたい。

(委員)

- ・ 市の負担額について、自家用車を利用する方は負担感を持ち、バスを利用する方はもっと増やしてほしいと思うのは当然で、市民に判断してもらうのは難しい。例えばコミュニティバスについて、地域内だけでなく、市外含めどういう移動・利用を望んでいるのかを知れるとよい。移動範囲を広げることで利便性が増すか、駅まで出れば乗り換えられるかなど、どういう利用を望んでいるかをアンケートで聞けるとよいのではないか。

(事務局)

- ・ コミュニティバスについては今後協議していくことになるので、今の視点も踏まえて調査していきたい。

(5) その他

(市長)

- ・ 年度初めであり、昨年度の事業評価をしていただいた。今後の取組みについて指摘いただきましたが、「○」とした項目にも反省すべきところがあると思っている、次期計画に活かしていくことが大事と考える。

若い世代や本日傍聴されているが議員からも声を拾っていきたい。また、デジタル部門も本日は参加させていただいている、DX 推進など市を挙げて公共交通を構築していきたい。PTA、子ども会、観光協会等々、それぞれのお立場から公共交通の思いをご発言いただきたい。ご協力よろしくお願いします。

(委員)

- ・ 運輸局の冊子を見て、臨時便について聞きたい。地区のイベントで、くるりんバスで参加できないかという話がある。制限があると思うが、PR 活動であれば融通が利くか。

(委員)

- ・ 一時的なイベントについての記載。詳細については個別にご相談いただき検討した

い。

(委 員)

- ・ 高齢の方も参加したいという声があった。走らせられれば利用促進の PR になる。

(委 員)

- ・ お祭りに合わせて臨時便ということはよくあると思う。交通事業者の関係もあるが活用していただければと思う。

(事務局)

- ・ 次回の地域公共交通会議について、10月頃を予定、正式な開催案内を後日送付するとの連絡を行い会議は終了した。